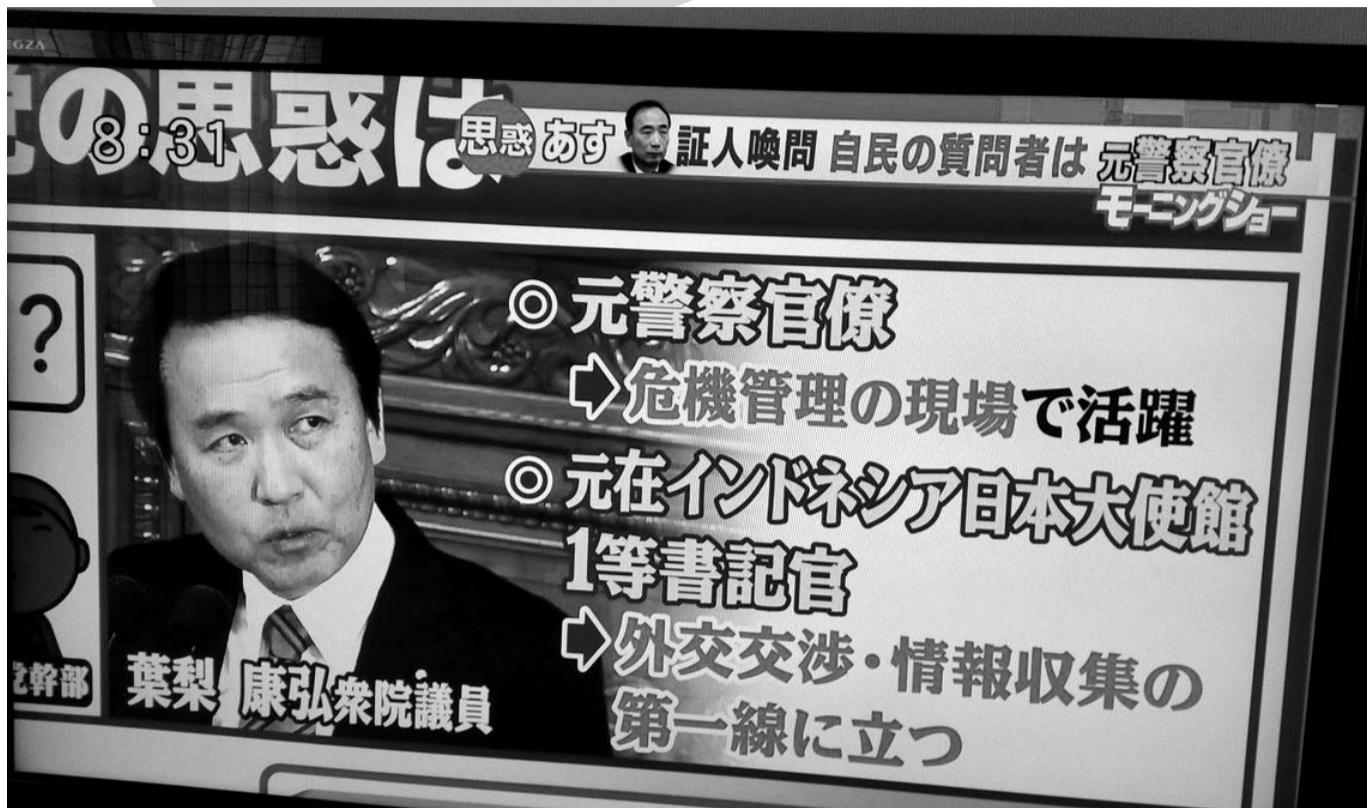


森友学園問題とは何だったのか(中編)

~喚問者葉梨康弘が語る事件の舞台裏~



週末は地元に帰り、国会質疑の資料等に丹念に目を通し、月曜日から、関係者の聞き取りを含め、本格的な下調べを開始しました。

証人への喚問などを行った際には、その事件の背景について、ありそうなストーリーを推理することが必要になります。以下、私が感じた「ありそうなストーリー」を述べていきます(もちろん他の可能性についても検討しましたが、字数の関係で省略)。

当日は、簡単な打ち合わせの後、週明けの21日に、役割分担などの詳細な打ち合わせをしようということで終わりました。

前編(6月に新聞折り込み)では、籠池氏に対する証人喚問の喚問者に指名されるまでを述べました。

指名されたのは3月17日、証人喚問が3月23日ですから、それほど日はありません。しかも、17日は金曜日です。

喚問者は、衆議院の公明党が富田茂之代議士、参議院は、自民党が西田昌司議員、公明党が竹谷俊子議員に決まりました。

(はじめに)

衆議院議員 葉梨康弘の国政報告

●発行●
自由民主党
茨城県第三選挙区支部
取手市新町4-22-33
討議資料

1 何故森友学園の土地はゴミだらけだったのか

このような「事件の筋読み」は、喚問の現場では、相手方の反応に応じ、次の質問を組み立てるために極めて重要な要素となります。

まずは本筋の土地取引の問題です。前編で、森友学園が購入した土地は、周辺の他の国有地に比べ、決して安価ではないということに触れました。

でも、あの土地は何故ゴミだらけだったのでしょうか。そしてそのことを、大阪航空局や近畿財務局は、本当に知らなかつたのでしょうか。もちろんこの疑惑は、籠池氏には何の関係もないことなのですが、事件の筋読みをするためには大切なことです。

(約6割が沼地だった小学校用地)

20日の月曜日は、国土交通省の担当者を何回も呼び、この土地の履歴を徹底的に調査しました。

この土地の約6割程度の面積は、昭和30年代の半ばまで、沼地でした。その後の空中写真を見ると、昭和38年の名神高速道路の開通後、何故か沼は消え、荒れ地となりました(この時期にゴミの不法投棄が行われたと考えられます。)。

そして、昭和40年代半ばには、田地、荒れ地とも表層が整地され、文化住宅が建つようになりました。

この土地を、昭和49年から平成元年にかけて、国が順次取得し、平成16年以降は、住宅も撤去され、完全な空き地となりました(住宅等の撤去に伴い、汚染土コンクリートガラ等のゴミが発生。また、この時期にもゴミの投棄が行われた可能性もあります。)。





ティングポーズをとり、3月16日には、民進、共産、社民及び自由の4野党の議員と籠池氏の自宅で話し合いを持つまでになるのかということでした。まず、右翼的教育への信念という点です。各方面からの情報によると、平成7年に籠池氏が義父から森友学園を引き継いだ当时、数億円の多額の負債があつたようです。この頃から籠池氏は、右派系教育を売り物にするようになり、右派系の団体と認識されることの多い「日本会議」にも入会したということです（もとも、6年ほど所属しただけで、会費未納により退会したこと。）。この教育方針は結構有名になり、籠池氏は、全国的な知己も得たようですが、寄付もあつたようです。

(当時から行われていた偽装工作)
その籠池氏が、安倍首相から百万円の寄付を受けた証拠として、「振り込み人安倍晋三」を「森友学園」に修正した振り込み用紙を（日付は平成27年9月）、インターネットで公開したわけです（実際に公開したのはジャーナリストの菅野氏。）。しかもその振込用紙には、例の「安倍晋三記念小学校云々」の記載があるではありませんか。

この「証拠」は、籠池氏が、当時から、「何かあつたらこれを公開しよう」と思っていたことの証左のように思えます。このように、籠池氏の教育は、いわば、「右翼ビジネス」という側面が強く、安倍首相夫妻は、「信奉」ではなく、「利用」の対象として位置づけられていたのではないか。

下調べの中で、私は、そんな思いを強くしていきました。
(3つの契約書のナゾ)



(大阪府へは過少申告)
私が漏れ聞いた大阪府の内規では、借入金の比率は、自己資本の半分程度でないと認可が下りないとということでした。当時、森友学園の資産は、集まつた寄付金を合算して4～5億と推定されました。15億円以上の建設費が必要とすれば、10億円ほどは借り入れでまかなわなければならなくなります。しかし、これでは誰が見ても自己資本不足です。

このため、建設費を過小に申告して、建設費の過半は、自己資本を充てている状況を偽装する。そんな筋立てが浮かび上がつてきました（このような行為は、公用文書毀棄や偽計業務妨害の罪に当たる可能性もあります。）。

(国土交通省へは過大申告)

次に国土交通省に提出された契約書。藤原工業の話が正しいとすれば、これも偽造の疑い濃厚です。実は、木材を多く使つた建物に対し交付される補助金は、建築金額が大きければ、補助金の額も増える仕組みになつており、建築費を過大に申告すれば、より多くの補助金を受け取ることができます。籠池氏は、これを悪用した疑いが濃厚であるように思われました（公用文書毀棄や詐欺の罪に当たります）。

最後に関西空港会社に提出された契約書。これは、建築費の過小・过大に関わ

らず、購入した空調設備の一定割合を補助するもので、契約書に細工をしても、余り意味はありません。

(刑事事件逃れ?)

籠池氏は、これらのことと、明確に意識していたのではと思われるふしがあります。

すなわち、平成29年3月、大阪府の松井知事が、7億5千万円の契約書について、「偽計業務妨害罪での告訴も検討」と表明すると、籠池氏は、直ちに、あれだけ情熱を傾けてきたはずの小学校認可申請をとり下げます。

偽計業務妨害罪は、偽りの申請などでむだな仕事をさせたことになります。小学校認可申請の業務を妨害（結果としてむだな仕事をさせたことになります。）することで成立しますが、認可申請を取り下げてしまえば、「実害（実際の損害がない）と主張することもでき、「重い罪で処断するほどのことではない」と判断される可能性もあります。

また、大阪地検特捜部が、24億円の契約書について、補助金を不正に受給した詐欺罪での告発を受理すると、その翌日には、お金には相当困つていたはずなのに、すでに受給した6千万円の補助金を、耳をそろえて返却します。これも同様に、「実害がない」と主張するための布石と思われました。

このように、この時期の籠池氏は、あくまで情熱を傾けていた小学校の開校云々よりも、いかに自分が刑事事件の捜査対象から逃れるかということに腐心していました。ただ、プロの目から見れば、相当明白

ですから（このような「刑事事件逃れ」を行なう方々は、それなりの方という見方もできましよう。）、証人喚問の場でこの問題を聞いても、籠池氏が、「刑事訴追のおそれがあるので証言拒否」という戦術に出ることは、容易に想像できました。

- ・ 概括的問題
- ・ 安倍晋三記念小学校への寄付の経緯
- ・ 次に公明党の竹谷とし子参議院議員が（15分、質問順は民進党喚問者の次）、



4 喚問者の役割分担

（喚問者の打ち合わせ）

自民・公明の4人の喚問者による打ち合わせは、3月21日と22日に行われました。もつとも、打ち合わせといつても、証人喚問にはシナリオはありません。籠池氏がどんなことを言い出すか分からぬわけで、結局は、おおむねの役割分担を行うのがせいぜいでした。

その中で、

まず参議院では、トップバッター

となる自民党の西田昌司参議院議員が（35分）、

・ 概括的問題

・ 籠池氏が主張する「百万円の

寄付受領」の事実関係

・ 3通の契約書問題と森友学園

の脆弱な財務状況

次に公明党の竹谷とし子参議院議員が（15分、質問順は民進党喚問者の次）、

などについて喚問を行うこととなりました。

（証人喚問当日へ）

3月23日当日、朝8時半から衆議院予算委員会の与党理事懇談会、続く9時から衆議院予算委員会の理事会が開催され、その日の段取りが話し合われました。

衆議院は、参議院の後となります。基本的に参議院段階で得られた供述の矛盾点等を質していくことになりますが、私（35分）が本件土地取引の経緯を、公明党の富田茂之議員（25分）が3通の契約書問題を質すという、おおむねの役割分担を行いました。

衆議院は、参議院の後となります。午前の部の証人喚問が始まりました。

朝10時から開会の参議院予算委員会には、籠池証人が予定通り出席、いよいよこれまで私が組み立てた「事件の筋読み」が正しかったのかどうか、あるいは他の可能性があるのか、真剣勝負で明らかにしていかなければなりません。

また、まことしやかに、「籠池爆弾」なる新事実が明らかになるかのような報道もありました。事実、3月23日の証人喚問では「籠池爆弾」が炸裂、私も、大幅な方向修正を図らざるを得なくなります。まさに反射神経と応用動作の世界です。完結編では、その顛末をお話ししていきましょう。

【完結編に続く】

<キリトリ線>
完結編は、前編の際、既に購読をご希望された方には順次無料で郵送しております。新たに完結編をご希望の方は、用紙を切り取り必要事項をご記入の上、FAX又は郵送にて、葉梨康弘事務所宛、お申し込み下さい（個人情報は、国政活動以外には使用いたしません）。無料で郵送させて頂きます。

TO 葉梨康弘取手事務所 FAX 0297-74-1852

ご氏名

ご住所 □

お電話番号

性別

男 · 女

メールアドレス（お持ちの方は記載して下さい）

葉梨康弘 プロフィール

略歴

昭和34年10月12日生まれ
昭和57年3月 東京大学法学部卒／警察庁入庁
在インドネシア日本大使館1等書記官
警察庁少年課理事官（警視正）
平成15年 衆議院議員初当選 102,315票
平成17年 衆議院議員再選 113,977票
平成21年 衆議院議員選挙にて惜敗 103,288票
平成24年 衆議院議員3期目当選 113,158票
平成26年 衆議院議員4期目当選 120,500票

現職

法務副大臣 兼 内閣府副大臣（第3次安倍再々改造内閣）

元職

財務大臣政務官（第2次安倍内閣）
法務副大臣 兼 内閣府副大臣（第2次・第3次安倍改造内閣）
衆議院法務常任委員長 予算委員会理事
農林水産委員会理事 国土交通委員会理事
自由民主党副幹事長 党国会対策副委員長
党総務部会長 畜産・酪農対策小委員長
東日本大震災復興加速化本部事務局長
行政改革推進本部事務局長

著書

探偵業法～立法までの物語と逐条解説
少年非行について考える
日本人は食べていけるのか？ 他

◆取手事務所

〒302-0024
茨城県取手市新町4-22-33
Tel 0297-74-1859 Fax 0297-74-1852

証人喚問の動画は、下記ホームページの「国会での発言」のコーナーでご覧になれます。

詳しい活動は葉梨康弘のホームページをご覧下さい。

<http://www.hanashiyasuhiro.com>